みんなで育てた南瓜を食べたよ！

１０月食だより　亀嵩幼児園

春園庭の畑にぞう組（5歳児）きりん組（4 歳児）の子どもたちが南瓜の苗を植え、「大きくな～れ」とお祈りしながら一生懸命水やりをしました。夏になると、南瓜はぐんぐん生長し、どこまでも伸び続け、「どこまでいくのかな～」と不思議そうに見る子どもたち。花は咲きますが、必ずしも花が実になるとは限りません。それでも子どもたちは毎日畑を見て花の下に膨らんだ実を見つけると「あっ！かぼちゃがなってる」と大喜び。そうするうちに、1 個 2 個と南瓜が増えていきました。そしていよいよ収穫期になり、待ちに待った南瓜をみんなで収穫しました。たくさん穫れた南瓜をせっかくなので、そのままの形で食べよう！と『まんまる南瓜』を給食に取り入れました。当日はAくんが「かたいなあ～」と言いながら給食室に運んでくれました。南瓜は上の部分を蓋用に切り、中をくりぬいて具材を詰めて焼いてからまた蓋をして子どもたちの前に持っていくと、「え～！」と驚きの声。そこでみんなの前で切ってみることにしました。包丁を入れると「かたくない！」とかぼちゃの硬さに気づいた子もいました。以前のクッキングの経験から、かぼちゃには種があるということを知っていたので、今回かぼちゃを切ったら「あれ？たねがない！」と不思議に感じたようです。食べてみると、「あま～い！」「かわがおいしい！」という子や、いつもはちょっと苦手な子も、もくもくと食べていました。みんなで育てた南瓜からいろんな驚きや発見をし、楽しい食体験となりました。





世界農業遺産のまち　奥出雲町

世界農業遺産・奥出雲町
GIAHS OKUIZUMO

奥出雲町は、自然とともに生きる暮らしが受け継がれてきた場所です。鉄づくりや農の営みを通じて育まれた知恵が評価され、世界農業遺産の町として認められています。

幼児園での野菜づくりや調理体験は、まさにこの「自然とともにある暮らし」を子どもたちが体験的に学ぶ機会となっています。土に触れ、育てた野菜を収穫し、みんなで調理して味わう経験は、奥出雲町に受け継がれてきた農の営みへの理解につながり、子どもたちが地域の豊かさを感じる大切な学びの時間となっています。